

別紙（申請書で同意をいただく内容）

常総市在宅医療・介護連携電子ネットワーク事業とは （電子@連絡帳 JOSO システム）

① 電子@連絡帳JOSOシステム（通常時）

診療・検査や日々のケア等の情報共有

この事業は、地域の医療・介護関係者の情報共有を支援するためのものです。

市役所が登録した支援対象者の基本情報を基に、関連する医療機関や介護サービス事業所が、電子@連絡帳JOSOシステムを活用し、個人情報の保護を厳重に図りながら情報共有を行います。診療・検査や日々のケア等から得た情報なども共有することにより、支援対象者に質の高い医療・介護サービスの提供ができる環境づくりを目的としています。

② 災害時安否確認

災害時の安否確認への使用

災害時、電子@連絡帳 JOSO システムは、要介護認定者等安否確認対象者情報として利用されます。安否確認を行う協力者に対し、対象者の住所・氏名・生年月日などの情報を開示します。

③ 救急情報連携

救急搬送時の情報の提供

救急搬送が必要となった場合、迅速な応急処置や早期搬送を目的として、電子@連絡帳 JOSO システムが保有する情報を消防署職員が確認します。

電子@連絡帳JOSOシステムのイメージ



①通常時

診療・検査や日々のケア等の情報共有



②災害時安否確認

避難所



支援者の避難状況の確認

安否確認の報告



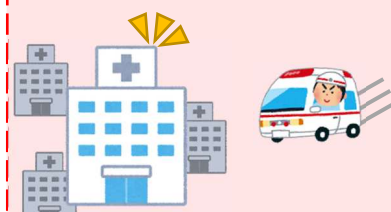
関係者の皆さまへ
Aさんは避難所へ
避難していました。

③救急情報連携

救急搬送者の身元確認
かかりつけ病院を確認



かかりつけ病院へ搬送
（支援対象者の関係者へ情報共有）



【想定事例1】

最近、もの忘れが気になり出した一人暮らしのAさん。
時々、どの薬を、いつ飲めば良いのか
解らなくなることもあります。

どれだっけ？
何個だっけな？



ケアマネジャーは『JOSOシステム』を使って、
かかりつけ医のJ医師に報告をしました。

J先生へ

Aさん、時々、お薬が解らなくなる時があるようです。
いつ、どのお薬を飲むのか？きちんと飲んだか不安に
なることもあるようです。



J 医師



ケアマネジャー

JOSO システム



次の診察日、J医師から「お薬をひとつにまとめて
みましょうか？」と提案されたAさん。医師から
聞かれたので、気になっていたもの忘れも、
医師に相談することができました。



【想定事例2】

一人暮らしのBさん。
近所に身寄りはなく、息子さんも親戚も遠方に
住んでいます。デイサービスを利用中に、大きな地震が発生。
Bさんの息子さんは、安否を確認したくて自宅やケアマネジャーに
連絡をしますが電話がつながりません。

※被災地には、外部からの電話が集中するためかかりにくくなります。

おふくろ、
無事かな？



Bさんが通っているデイサービスでは、『JOSOシステム』に
登録しているので、『JOSOシステム』を使用し、
Bさんの無事をケアマネジャーに報告。
ケアマネジャーから息子さんに連絡が入りました。

※被災地側からは、比較的つながりやすくなります。



デイ職員

JOSO システム

ケアマネジャーさんへ

Bさんはデイサービス利用中です。おケガもなく無事すごされています。
息子さんへのご連絡をお願いします。

【想定事例3】

一人暮らしのCさんが自宅で意識を失い倒れているところを、
近所の方が見つけて救急車を呼びました。救急隊は到着すると、
『JOSO システム』に登録されている家族の電話番号に連絡。
同じく登録されていた主治医のいる病院に連絡をして速やかに
救急搬送、家族と合流して早期に治療が受けられたため
大事にいたりませんでした。

